

政策研究大学院大学教授の竹中治堅氏に、「短命政権の研究 ねじれ国会を中心に」と題してお話しいただき、自由討論をしました。概要は以下の通りです。資料別添。

日本政治の問題は、政策形成がうまくいかないことにある。この問題の背後には、官邸主導の問題、政党の意思決定のあり方の問題、国会のねじれ、過度の選挙といった要因がある。また、一票の格差の問題も深刻である。世論と政策の乖離の根っこは、この格差に起因していると言ってもよい。都市対地方では、人口：45 対 55 にもかかわらず、衆議院：40 対 60、参議院：32 対 68 となっているので、たとえば TPP に反対する議員は、農村地域選出議員が多く、その声が課題に反映されているとも言える。

ではどうすればよいのか、官邸のあり方については法律で枠をはめてしまう(さまざまな会議の整理)、国会と内閣の関係の見直し(予算権限と予算関連法案のねじれのようなものの是正)、参議院の選挙制度改革(両院協議会も含めて)、定数是正、政治家の処遇改善(今の歳費では優秀な政治家は育たない)、党首選の改善(首相の人気との整合性)などについて、時間をかけながら検討を進めていく必要がある。

以下の議事録本文は会員用メールマガジンで配信いたします。